

R8年度 杉並区立松ノ木中学校 研究・研修構想図

I 本年度の研究の進め方

(1) 研究主題について

- ・教員一人一人の「困り感」や「やってみたい」を出発点とし、教育の質を維持し向上させながら業務の効率化、負担軽減を図る実践的研究を行う。
- ・小さく試し、すぐ共有する「ライトPDCA」で進める。【Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)】
- ・成果は“型”として残し、全体で活用する。

(2) 組織及び校内研究・研修の内容

- ・希望調査を全教員に実施し、その結果をもとに4つのプロジェクトチーム(PT)を作る。
- ・各PTで仮説を立て、試行(実行)する。
- ・試行結果、Formsでアンケート集計を行い、効果検証を行う。
- ・効果が見られるものは継続実施し、働き方改革を推進していく。疑義のあるものは修正して再試行または別案を検討し、試行・検証する。

(3) 実態アンケート調査について

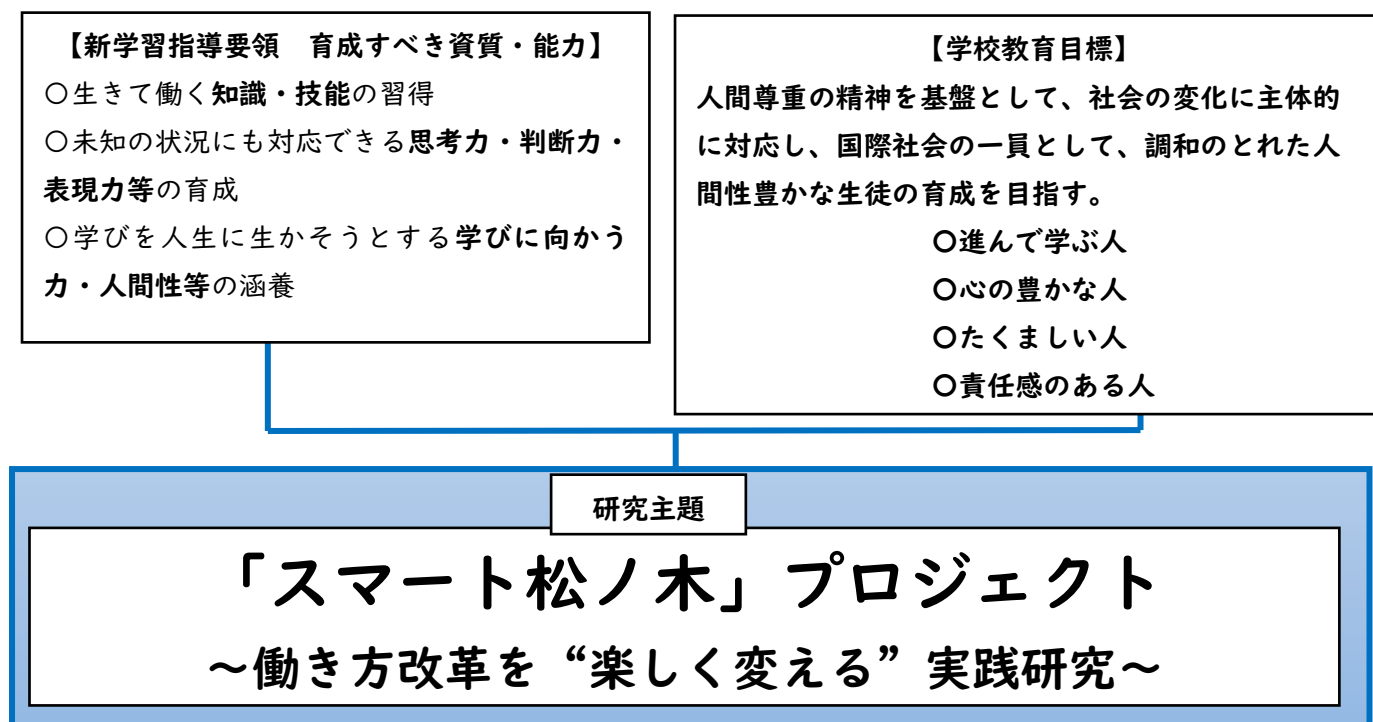
- ・効果検証を行うために、6月、12月にアンケートをとり、分析、振り返りを行う。

No	6月	12月
1	学校では、自校の教育課題や校内研究のテーマについて、教職員間で理解・共有されていると感じている。	学校では、自校の教育課題や校内研究のテーマについて、教職員間で理解・共有されていたと感じている。
2	私は、校内研究を自分事として捉え、主体的に関わろうとしている。	私は、校内研究を自分事として捉え、主体的に関わることができた。
3	学校全体で、前向きに校内研究に取り組もうとする雰囲気がある。	学校全体で、前向きに校内研究に取り組む雰囲気があった。
4	学校は、立場や経験年数に関わらず、意見を出し合える雰囲気がある。	学校は、立場や経験年数に関わらず、意見を出し合える雰囲気があった。
5	学校は、教職員間で研究の進め方(探究的なプロセス)を共有している。	学校は、教職員間で研究の進め方(探究的なプロセス)を共有していた。
6	学校は、研究の成果や課題を共有し、その後実践に生かそうとしている。	学校は、研究の成果や課題を共有しながら、次の実践に生かしていたと感じている。
7	私は、校内研究を通して、自分の実践に関する課題を意識して取り組むきっかけにしたいと感じている。	私は、校内研究を通して、自分の実践に関する課題を意識して取り組むことができた実感している。

- ・以下の内容を4件法で実施(そう思う・ややそう思う・あまりそう思わない・そう思わない)

No	6月	12月
8	校内研究は、自分（教師）自身が主体的に考え、他者と対話しながら理解を深めたり、課題を探究したりすることにつながりそうだと感じている。	私は、校内研究を進める上で、自分（教師）自身が主体的に考え、他者と対話しながら理解を深めたり、課題を探究したりすることができたと実感している。
9	私は、校内研究での取組が、自らの実践を振り返りながら、授業や校務を改善するきっかけになりそうだと感じている。	私は、校内研究での取組が、自らの実践を振り返りながら、授業や校務を改善するきっかけになったと実感している。
10	私は、ICT を活用することが、児童・生徒の学びを深めたり、学習状況を把握したりするなど、授業改善や校務改善につながりそうだと感じている。	私は、ICT を活用することが、児童・生徒の学びを深めたり、学習状況を把握したりするなど、授業改善や校務改善につながったと実感している。
11	私は校内研究を通して、授業や校務において ICT を活用する力が高まりそうだと感じている。	私は校内研究を通して、授業や校務において ICT を活用する力が高まったと実感している。
12	私は、授業改善や校務改善における ICT 活用について、不安や難しさを感じている。	私は、授業改善や校務改善における ICT 活用について、当初感じていた不安や難しさが和らいだ、または整理されたと実感している。
13	現在、校内研究を進めるうえで感じている期待や不安があれば教えてください。	校内研究を通して、印象に残っている変化や気づき等があれば教えてください。
14	現在、生徒と向き合う時間は確保できていますか。	校内研究を通して、生徒と向き合う時間が増加したと実感している。

2 研究構想図



【改善したい学校の課題】R7年度実施した教育調査結果より
 教育調査結果を踏まえた「働き方改革」の具体的な推進

- ・業務多忙に伴う生徒と向き合う時間⇒教員の半数以上が十分に確保できていないと回答
- ・タイムマネジメントを意識した勤務⇒教員の半数が否定的な回答
- ・松ノ木中の働き方改革の進捗状況⇒意識的に取り組めていないと教員の3分の2が回答
- ・ワーク・ライフ・バランスのとれた生活⇒教員の約6割がバランスを欠いていると認識

☆学校の業務全般を見通した教員発の提案がなされる場が少ないことも課題として挙げられる

本研究では、「業務の効率化」と「教育の質の向上」を両立させることを目指し、
 4つのPTに分かれ、実践的な改善に取り組む。

【研究仮説】

ICT(Forms,Excel,Teams等)を活用し業務を可視化・共有することで、業務時間の削減と生徒と向き合う時間の創出が可能になるだろう。

【研究仮説】

業務の標準化（マニュアル化）を行うことで、経験年数に関わらず安心して業務を進められるようになり、心理的負担の軽減につながるだろう。

【研究仮説】

総合的な学習の時間において、探究のプロセスを明確にし、その過程を生徒と共有しながら学習を進めることで、生徒の主体的・協働的な学びが促進されるとともに、教員の指導の見通しが高まり、より質の高い授業実践につながるだろう。

【研究仮説】

担任・副担任の業務を可視化し、役割分担や進め方を整理・共有することで、業務の効率化が図られ、生徒と向き合う時間を確保できるようになるだろう。

【研究内容】

- ・時間割システムを発展させ、教職員の予定を一元管理・共有できる環境を整備する。
- ・生徒も時間割や学校からの連絡事項をデジタル上で確認できる仕組みを構築し、情報共有の効率化と業務時間の削減を図る。

【研究内容】

- ・プロジェクトチームのメンバーは、今年度の自分の立場で職務の記録（仕事内容・保存ファイルの場所・担当者名など）を行う。
- ・それぞれの立場でマニュアルを作成する。

【研究内容】

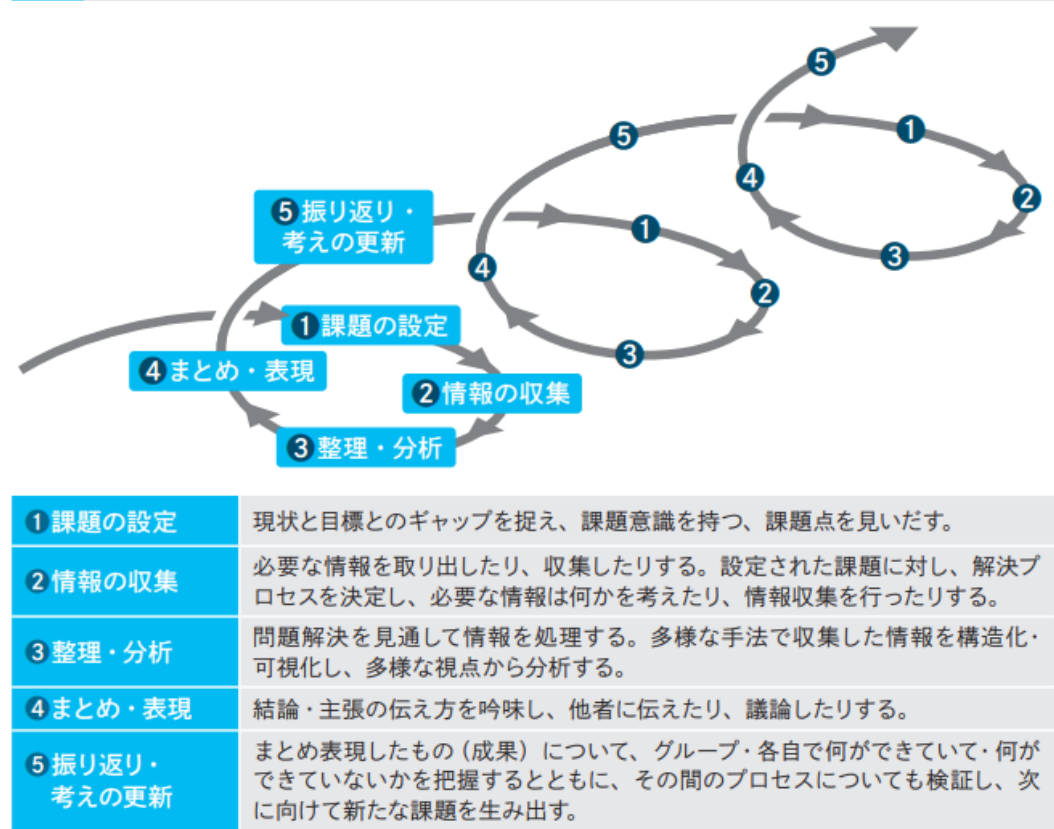
- ・生徒の発表（班・個人）の質を高めるための発表フォーマットや評価規準の提案をする。
- ・総合的な学習の時間における学習内容を精選・構造化し、3年間を見通した探究的な学びの系統化を図り、その在り方を提案・共有する。

【研究内容】

- ・担任・副担任の業務を洗い出し、担任と副担任の割り振りを明確にする。
- ・分担できることから運用していく。

3 研究を進めるための探究のサイクルについて

図1 探究的な学習における学習の進め方



*「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」と「未来を拓く『探究』導入編」(ベネッセより刊行→P. 9 参照) を基に編集部で作成